

東京新聞 2006年4月17日 朝刊掲載

### 小沢民主党でどうなる 二大政党化 流れ再び

小沢さんへのいくつかの批判は、承知していますよ。一つは豪腕。でも、豪腕の意味は、黒白(こくびやく)をはっきりさせるということ。黒白をはっきりさせる政治家こそ、稀有(けう)な政治家だと思う。

それから、周辺が離れていくという批判があった。そして、ほとんどが自民党に戻っていった。これは、与党のうまみに抗することができず、理念を捨てたということ。その人にとっては認めたくない話だから、「小沢が悪い」となる。

小沢さんがそんなに嫌いなら、自民党に戻らないで、ほかの党をつくるべきだ。ほとんどが私利私欲で動いていた。

「壊し屋」といわれるが、これは理想を追求するから。戦前の政治家で、本当に理想を貫いたのは犬養毅と尾崎行雄。この二人は党をつくっては壊した。理想を追求すると、そうなる傾向があることは認めてほしい。理想のためには、安易な妥協をしないのが小沢さんのエッセンスだと思う。

「隠密行動」という批判は分かるが、いろいろ画策するのも政治家。これは悪いと思わないが、説明が少ないことが問題なんですね。東北人の寡黙さがごう慢と響くんですね。これは正直にそう思います。でも、最近はテレビに実によく出る。昔は断っていた。一生懸命やっているんじゃないですか。

この間のいろいろなことによって壊れてしまった二大政党化へのムードが、小沢さんが出てきたことで再び盛り上がるのを期待している。二大政党的なものをつくるためには、民主党の政策の深掘りと、地に足のついた日常活動の二つが大事。これは小沢さんがいつも言っていることです。